シラバス

2022 年度

ファインアート科版画専攻２年

本物にふれる　本当の力をつける

学校法人髙澤学園 美術造形専門学校
創形美術学校
ファインアート科／ビジュアルデザイン科／研究科

履修ガイド

1. シラバス・出講表

(1)各授業のシラバス・出講表として授業内容の他、学習目的、予習、準備物、注意事項とともに評価方法および教員・講師の出講日も記載。授業の 1 週間前にはアトリエに出講表を掲示。また学校ホームページでも確認することができる。

(2)シラバスには次の内容が記載されている。

「授業名」「担当教員」「授業期間」「学習目標」「授業内容」

(3)出講表には次の内容が記載されている

「授業名」「担当教員」「受講アトリエ」「修得単位」「授業内容」「授業スケジュール/計画」「指導日」「学習目標」「予習・準備物」「注意事項」「評価方法」

(4)指導日以外は授業が休みということではない。指導日以外の「自主制作日」も各自で制作を進めること。授業期間で制作を行うことで時間数に基づき単位がそれぞれ設定されている。スケジュールを確認し、作品提出日をしっかり守ること。

(5)シラバス、出講表、年間行事は学校ホームページで閲覧できる。

(創形ホームページ→学生生活→スクールガイド→シラバス・出講表)

※年間行事の変更があった場合には、その都度更新される。

2. 単位

単位認定

各授業科目について基準に従って履修し合格すると、その授業科目に割り当てられている単位が与えられる。授業毎の修得単位は「出講表」に記載される。単位取得には成績および出席も含め総合的に判断される。授業科目には「学科科目」と「実技科目」からなる。(P10「4 . 単位制度」参照)

(1)「学科科目」「実技科目」ともに、各授業の基準に従い、合格と認定された学生には、所定の単位を与える。

(2)各授業科目に対する単位は以下のような算定基準に基づき授業が開設される。

1 コマ(90 分)の授業が前期、または後期に週 1 回を基準に開設されている授業に対し 1 単位を基準とする。2 コマ(180 分)の集中授業が 3〜4 週間を基準に開設されている授業に対し 2 単位を基準とする。

※1 単位:約 25.5 時間=1 コマ 17 週相当

(3)各授業の修得単位数は「出講表」に記載されている。

進級の単位数

進級するには、1 年間の修得単位が 32 単位以上なければならない。

卒業・修了の単位数

本課程を卒業するには 3 年以上在学し、かつ所定の 96 単位以上(編入生は 2 年以上在学し、合計 64 単位以上) 修得しなければならない。研究科は 1 年以上在学し、かつ所定の 32 単位以上修得しなければならない。

3. 履修

(1)授業について単位を修得するためには 2/3 以上の出席が必要となる。止むを得ず授業を欠席する場合、必ず事前に学校へ連絡すること。

(2)原則、指導日の授業開始時に出欠確認を行う。遅刻・早退は記録し、3 回をもって 1 回の欠席扱いとなる。

(3)交通機関の遅れに関しては必ず遅延証明書を授業担当教員へ提出すること。

(4)学生の履修は在籍する科の指示に従い、受講する科目は原則として全て履修する。

(5)学生は出席率 85%を最低水準レベルとして求められる。

(6)選択科目に限らず授業登録は、授業途中からの受講や、受講を途中で取りやめることはできない。

(7)選択を希望する科目で受講人数が多い場合は、人数制限を行うことがある。

4. 採点

(1)受講した科目は課題(レポート含む)を提出しなければならない。

(2)必要に応じて授業内で課題(レポート含む)提出を複数回、行うことがある。

(3)科目の採点は、授業終了時に授業担当教員によって行われる。

(4)採点の方法は課題(レポート含む)の提出を含む総合的な評価で採点する。

※評価方法はシラバスに掲載。

(5)受講した科目の出席日数が 3 分の 2 以上に満たない者は、原則として採点を受けることができない。

5. 追採点

病気その他やむを得ない事由により課題(レポート含む)を提出することができなかった者に対し、事前にその旨連絡のあった場合に限り、願い出により実施することができる。ただし課題(レポート含む)内容は授業内の課題(レポート含む)と異なる場合がある。

6.成績評価

成績は100点満点とし、60点以上を合格として5段階で評価する。

(1)採点は、60～100を合格とし、それ以下を不可とする。

(2)配点区分は下記に記す。

(3)「実技科目」の成績評価は、定められた単位数に応じて課される課題作品・論文のすべてが対象になる。成績評価に当たっては、出席回数が授業回数の2/3以上になっていることや、学習状況等、総合的に判断される。一つの授業科目で未提出課題作品・論文があると、その科目の単位は認定できない。課された作品・論文はすべて指定された日時に必ず提出すること。提出期限に遅れた作品・論文の提出は原則として認められない。ただし担当教員が許可した場合はその限りではない。

(4)作品、レポート等の提出物に関し、履修者以外の者が代理で作成、または他の者が作成した作品レポート等を自ら作成したとして提出した場合は不可とする。

(5)本課程は前期、後期授業において学期末に学科・実技の履修状況の確認を学生・保護者に郵送する。単位不足のある学生は学校の指示に従い、不足分の単位修得を行わなければならない。

※住所が変わった場合等は必ず事務窓口に申し出て、手続きをする必要がある。

採点	評価	
１００～９５	ＡＡ	合格
９４～８０	Ａ	
７９～７０	Ｂ	
６９～６０	Ｃ	
５９～　０	Ｄ	不可
保留	－	仮処置

GPA(Grade Point Average)成績評価制度

創形では、5段階の成績評価とGPA(Grade Point Average)制度を導入している。GPAとは1単位あたりの成績の平均値を示すもの。成績評価の5段階評価でGPAを算出、表示することで学修の到達度がより明確に示される。その目的は学生一人ひとりが自らの履修管理に責任を持ち、履修登録した科目を自主的、意欲的に学修すること。5段階評価やGPA制度は外国の多くの大学が採用しており、国際化に対応した成績評価方法。留学や大学院進学等を希望する場合には必要な制度となる。

7. 休講

やむをえず休講となる場合は、授業内、ホームルーム、G-mail 等にて伝達する。補講は原則行わない。

8. 再履修・仮進級

採点の結果「不可」となった者は、次年度以降において原則としてその科目を再履修しなければならない。ただし在籍学年の履修を優先とするため、履修科目の変更、または再履修年度の変更についての決定は学校の指示に従うこととする。修得単位数が 1 年次、2 年次それぞれで 15 単位以下、または 1～2 年次を通じて合計 32 単位以下は留年となる。16 単位以上で所定の 32 単位に足りず、進級判定審査において判定された場合は「仮進級」という扱いになる。

(1)採点の結果、点数が 59 点以下の場合は「不可」となり、原則として次年度以降において再履修となる。授業担当教員による採点が「保留」と評価された場合は、追課題(レポート含む)が課せられる。追課題の採点は専任教員の判断に委ねられ、成績会議によって判定される。

(2)提出日より遅れての提出や、課せられた追課題の提出等が授業担当教員、あるいは専任教員に認められた場合には総合的な判断で採点し、合格と認定された場合のみ単位習得となる。

9. 専攻を越えた授業

専攻を跨いで受講することが可能。ただし専任教員の許可が必要。

(1)授業開始の 2 週間前までに「受講届」を直接専任教員に提出。面談し、了承を得てから受講すること。

(2)授業によっては、そこで使用する道具、機材やアプリケーション等の関係で受講できないことがある。

(3)原則、自身の専攻を疎かにしない範囲での受講となる。

(4)「受講届」は学校ホームページよりダウンロードできる。

(5)専攻を跨いで受講した授業における単位は、その授業の修得単位とする。

10. 卒業制作

3 年次後期に卒業制作を提出し、その単位(16 単位)を修得しないと卒業できない。卒業・修了制作は定められた日時までに必要な書類、作品を提出すること。規定日時以降の提出は無効となる。

※不慮の事故、交通機関の遅延等により定められた日時に持参して提出できない場合は、必ず期限以内に学校に電話でその旨を連絡する必要がある。

※交通機関の遅延等で提出が遅れる場合は、駅長又は交通機関の発行する遅延証明書を持参しなければならない。

11. 卒業・修了資格判定および卒業・修了判定

(1) 卒業・修了年次の 11 月に卒業・修了資格判定会議にて「卒業・修了資格判定」を行う。また翌年の 2 月に卒業・修了判定会議にて「卒業・修了判定」を行う。

(2) 卒業・修了資格判定会議にて成績、出席等、総合的に審査し、「合格」と認定された者は、卒業・修了制作に着手できる。また「判断保留」と判定された学生についても、同様に卒業・ 修了制作に着手できる。審査の結果「卒業・修了不可」と判定された者は、卒業・修了制作に着手することはできない。

(3) 卒業・修了判定会議にて単位修得状況、成績、出席、卒業・修了制作規程違反の有無等、総合的に審査され、「合格」と認定された者は、卒業、あるいは修了が認められる。「卒業・修了不可」と判定された者は、留年、退学、もしくは除籍となる。また「卒業・修了保留」と判定された者は、要件付きで 3 月末日、9 月末日、ないしは翌年 3 月末日の卒業延期となる。その場合、期日までに要件を満たし、かつ卒業・修了判定で「合格」と認定される必要がある。期日までに要件が満たされない場合、1 年間までは卒業延期となる。ただし、1 年間を経過しても要件が満たされない、あるいは「卒業・修了不可」と判定された場合は退学、あるいは除籍となる。

(4) 「卒業・修了保留」と判定された者のうち、特に情状が考慮された場合に限り、通常の卒業が許される。

(5) 卒業・修了資格判定にて「判断保留」と判定された学生のうち卒業・修了判定会議にて「合格」と認定された者は、その時点で「判断保留」が解除される。

12. リモート(遠隔)授業

本校では対面授業の他にリモート(遠隔)授業を行う。リモート授業はスマートフォンでの受講も可能であるが、可能であればパソコンやタブレットでの受講を推奨する。充分な環境が整っていない学生のために学内に受講教室が用意されている。またネット環境が不安定で映像や音声が乱れる等の恐れがある場合も学内の受講教室での受講を推奨する。

リモート授業は以下の 2 タイプの授業形態である。

(1) 「リアルタイム授業」は Zoom を使用してリアルタイムに行う授業である。

(2) 「オンデマンド授業」は創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴し、受講する授業である。動画視聴は創形生のみの非公開となる。パスワードは学外に漏れないように取り扱いには充分注意すること。

※授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。

リアルタイム授業の進め方

(1)リアルタイム授業はあらかじめ Zoom をインストールして授業を行う。スマートフォンでも受講可能。

(2)Zoom の表示名は必ず学籍簿登録の氏名とすること。学生登録名になっていない場合、欠席扱い、あるいは退出させることがある。

(3)Zoom アカウントの ID とパスワードは事前に各授業ごとにメールで通達する。

(4)配布する授業資料がある場合は Zoom アカウントの ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。資料を閲覧できるのは創形生のみの非公開となる。取り扱いには充分に注意すること。

(5)授業は原則、通常の授業時間で行う。授業開始 5 分前までに準備し、接続すること。

(6)できるだけ静かな場所で背景に映り込むものに不都合がないか確認し、受講すること。ハッキングや情報漏洩のリスク軽減のため、フリーWi-fi の使用は推奨されない。

(7)ウェブカメラ付きのパソコンやスマートフォン等を使用し、カメラは必ず ON にし、マイクはミュートにして受講すること。質問など発言する際にマイクのミュートを解除して使用すること。発言する際には必ず教員の許可を得ること。

(8)教員への質問はチャット機能を使用するか、教員が許可した場合にマイクのミュートを解除して行うこと。教員の音声が途切れた場合等も同様にチャット機能を使用するか、マイクのミュートを解除して質問、または再度話し直してもらうようにお願いすること。

(9)授業時間内での Zoom での対応は教員の指示に従うこと。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。

(10)自宅のネット、パソコン環境が不充分な学生は学内の受講教室にて受講すること。またリアルタイム授業終了後に次の授業までの登校時間が確保できない学生も同様に学内の受講教室にて受講すること。

リアルタイム授業の出欠・採点

(1)担当教員が Zoom で確認して出欠を取る 。あるいは Zoom の録画機能を使用する。遅刻した場合はチャットあるいは音声にて必ず担当教員へ申告すること。また途中での退席は早退扱いとなるので注意すること。一時的に Zoom から退出する場合は、担当教員に必ず許可を得ること。

(2)作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法にて

行われる。

(3)データでの提出は担当教員の指示に従い、Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。

(4)作品データを添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場合はオンラインストレージサービス等を使用すること。以下参照。

オンラインストレージサービス〈ギガファイル便〉https://gigafile.nu/

※1 ファイル=200GB まで可能。使用方法が分からない場合はメールにて学校へ問い合わせること。

オンデマンド授業の進め方

(1)オンデマンド授業は、Gmail アカウントを使用する。

(2)創形特設ページ(限定公開)にアクセスし、録画された動画を視聴して行う。スマートフォンでの受講も可能。

(3)創形特設ページのアカウントの URL や ID、パスワード等を事前に通達する。

(4)授業動画は、各自でアクセスして視聴すること。1 回の授業に対してレポートか作品制作などの提出物がある。提出日に注意し、遅滞なく提出すること。それらの提出が無い場合は受講したことに ならないので注意すること。

(5)授業内で作品に対する講評やコメントに関してもオンラインで行うことがある。

(6)配布する授業資料がある場合は、創形特設ページのアカウント ID 等と共に連絡し、本校ホームページ、あるいは Google Classroom へ PDF でアップするか、登校時に配布する。受講生は事前に目を通し、場合によってはプリントアウトしておくこと。動画視聴、および資料を閲覧できるのは創形生のみとなる。パスワードは学外に漏れないようにまた資料の取り扱いには充分注意すること。

(7)自宅のネット、パソコン環境が不十分な学生は学内の受講教室にて受講すること。

オンデマンド授業の出欠・採点

(1)授業の形態や授業の進め方に関しては授業担当教員から説明される。

(2)授業の出欠は作品、レポート等の提出物が期限内に提出されたことの有無で担当教員が取る。期限内に必ず提出すること。

(3)作品、レポートの提出は授業担当教員の指示に従うこと。採点は対面授業と同様の方法にて行われる。

(4)データでの提出は Google ドライブ、DropBox 等で提出することもある。

(5)作品データをメールに添付する場合は 10MB 以内にすること。10MB 以上のデータサイズの場

合はオンラインストレージサービス等を使用すること。(上記参照)

リモート授業における禁止事項

(1)ビデオ通話、音声通話の、録画・録音・撮影は禁止。また転記することも禁止。

(2)許可なく誰かを同席させるのは禁止。もしも同席を希望する場合は、事前に教員の許可が必要。

13.提出作品・参考作品

提出のあった課題作品、およびレポートについては原則として採点終了後、速やかに返却を行う。返却された作品は速かに持ち帰ること。返却された作品が放置されていた場合に処分することがある。場合により参考作品として一定期間預かり、授業の資料として授業時やガイダンス等で使用することがある。また、学校案内用の印刷物や広報(ホームページ、SNS など)および学校外等、授業以外での目的で作品や授業風景画像を使用することがある。

14.授業単位サポート制度

「授業単位サポート制度」とは単位修得をサポートするための制度。いずれも専攻担当専任教員と面談を通じて認定される。

代替授業・学外活動を通じて認定

(1)所属専攻、該当学年の授業以外の授業を受講することによる単位修得(単位数:受講授業単位に準ずる)

※所属専攻の授業と重複した場合は受け入れ授業の担当教員の許諾により、途中からの受講、中抜けも認め、その場合のみ出席扱いとする。

(2)インターンシップに参加、レポートを提出することによる単位修得(単位数:1 単位)

※2 年次の「インターンシップ」の授業と同様のインターンシップを、授業以外の期日に行った場合に認める。「インターンシップ」の授業同様に書類、レポート提出が必須。採点方法は受入会社の評価に従い採点。

(3)ボランティア活動等による単位修得(単位数:活動期間に準ずる)※単位認定は原則、実質 1 日 8 時間のボランティア活動を 5 日行う事で 1 単位とする。事前に専攻担当専任教員による面談を行い、ボランティア活動を行った後に「ボランティア活動報告書」の提出をもって認定。採点評価。認定される。

ボランティア活動に、豊島区の国際アート・カルチャー活動を含む。

(4)学外コンペに出品することによる単位修得(単位数:1 単位)

※専攻担当専任教員にコンペの内容を事前に報告し、出品前に専攻担当専任教員の講評を受けて出品すること。ただし授業の一環として行われたコンペの出品は認められない。

例:「日本タイポグラフィ年鑑学生部門」「アワガミ国際ミニプリント展」「回遊美術館」「GU タペストリーコンペ」etc

特別支援授業を通じて認定

特別支援授業を受講することによる単位修得(単位数:各 1 単位)

受講料:1 講座 15,000 円/採点方法:提出作品、試験、レポート等によって採点。

※特別支援授業とは、単位取得を支援するために行われる授業。春期休暇、夏期休暇に「学科科目」と「実技科目」が開設。授業日の前の週までに事務局窓口で受講することを告げ、受講料を支払うことにより受講が認められる。

※新型コロナウイルスの感染症拡大の影響に伴い授業日程（時期・期間・時間帯など）、授業内容、使用アトリエなどが変更になることがあります。詳細は出講表を確認してください。

ファインアート科版画専攻

シラバス

２年次ファインアート科
■版画専攻　単位一覧

	授業科目		履修形式	単位数
学科	版画概論		必修	1
	フランス語Ⅱ		選択	2
	特別講座+就職セミナー		選択	1
	日本語 1		選択	3
	小計			1
実技	素描Ⅱ	現代美術演習Ａ	必修	6
		リトグラフ		
		木版画		
	素材研究	シルクスクリーン	必修	5
		技法と表現 A		
		石版画		
	技法演習Ⅱ	銅版画	必修	6
		現代美術演習 B		
		写真と美術		
		製本実習		
	主題表現演習	ドローイング A	必修	7
		木口木版画		
		銅版画直刻法		
		ドローイング B		
		先端メディア		
	表現基礎演習Ⅱ	技法と表現 B	必修	7
	視覚言語Ⅱ	版画講座	選択	1
		インターンシップ	選択	1
	小計			31
	合計			32

２年次ファインアート科
■版画専攻　時間割

<table>
<tr><th></th><th></th><th>9：20-10：50</th><th>11：00-12：30</th><th>13：30-16：30</th></tr>
<tr><td rowspan="2">月</td><td>前期</td><td colspan="2">日本語 1
501</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td>後期</td><td colspan="2">実技カリキュラム
402、工房</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td rowspan="2">火</td><td>前期</td><td>現代美術演習Ａ・Ｂ
502</td><td>現代美術演習Ｂ
401</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>写真と美術
502</td><td>自主制作
402、工房</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td rowspan="2">水</td><td>前期</td><td colspan="2">実技カリキュラム
402、工房</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td>後期</td><td colspan="2">実技カリキュラム
402、工房</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td rowspan="2">木</td><td>前期</td><td>自主制作
402、工房</td><td>版画概論
501</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td>後期</td><td colspan="2">実技カリキュラム
402、工房</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td rowspan="2">金</td><td>前期</td><td colspan="2">日本語 1
501</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td>後期</td><td colspan="2">実技カリキュラム
402、工房</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td rowspan="2">土</td><td>前期</td><td>フランス語Ⅱ
501</td><td>版画講座
502</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>フランス語Ⅱ
501</td><td>自主制作
402、工房</td><td>実技カリキュラム
402、工房</td></tr>
</table>

場合により、曜日や教室が変更になることがあります。

1 階外掲示板、アトリエの連絡を確認すること。

学科科目：前期学科授業名：「版画概論」　担当教員：天野純治

授業期間：2022/04/14(木)- 2022/07/14(木)

授業時間：11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：この授業では現代版画とは何かを考えることを目標とします。現代版画や現代美術について多くの作品を鑑賞し、様々な作品が持つ魅力やコンセプトを知って行きます。それら作品の変遷、現代美術史に理解を深めることから個々の制作の可能性を拡げることを目標とします。

授業内容：現代美術作品、現代版画作品の鑑賞。ポップアート以降、現在に至るまでの様々な作品の鑑賞を通してその作品の魅力とコンセプトの研究を行い、現代版表現を考える。自身の作品をより理解し、制作の可能性を拡げることを目的に、個々の作品のプレゼンテーションを行う。

学科科目：前期学科授業名：「版画講座」　担当教員：今井圭介

授業期間：2022/04/16(土)- 2022/07/09(土)

授業時間：11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：版画の歴史や世界、様々な技法と表現との関わりなどを学んで版画をより深く理解し、制作等に活かすことができる素地を身につける。

授業内容：日本の伝統木版画の浮世絵はよく知られた版画ですが、日頃使っている紙幣の肖像画が見事な銅版画であるという事はあまり意識されていないでしょう。この講義ではこうした実は身近に存在する版画にも目を向けながら資料や画像、実物を交えて版画について学びます。

学科科目：前期・後期学科授業名：「特別講座・就職セミナー」

担当教員：ゲスト教員

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：特別講座：現代社会においてクリエイターの役割は益々重要性を増し、その領域は日々拡大しつつあります。講座では創作における考え方、発想法をリアルタイムな講義を通して学んでいきます。

就職セミナー：就職活動から入社後の心構えやクリエイターとしての取り組みなどについてセミナー講座を開催。

授業内容：6/11(土)海外講座 A、7/9(土)就職セミナーA、9/17(土) 2 年就職セミナー、10/15(土)同窓会講座、10/29(土) 就職セミナーB、11/19(土)海外講座 B、12/11(土)創形展講座、2/10(金)就職セミナー（就活ポートフォリオ）※日程は出講表を確認してください。

学科科目：選択学科(前期・後期)授業名：「フランス語 II」　担当教員：内田雅樹

授業期間：2022/04/16(土)- 2023/02/18(土)

授業時間：9：20-10：50

修得単位：2 単位

学習目標：フランス語 I の修了者を対象とします。一年次のコミュニケーション力にさらに磨きをかけながら、会話・文法の両面でより幅広い表現力と知識の習得を目指します。また、「話す」「聞く」ことがより安定するように、「読む」「書く」側面も少しずつ意識してフランス語を総合的に身につけていきます。

授業内容：前期は主に、ステップアップした一年次の延長として展開し、テキストの問題練習なども利用しながら表現の拡充と定着を図ります。後期は、観光など現地で体験する観点を切り口としながら、シチュエーション別の対応力を養います。また、個人の関心に任せたフランス旅行の機会を想定して、自ら情報を収集して簡単なしおりを制作してもらい、フランスをより身近に体験する時間を設けます。

学科科目：前期学科授業名：「日本語 1(留学生対象)」　担当教員：蒋 燕萍

授業期間：2022/04/11(月)-2022/6/27(月)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：3 単位

学習目標：①日本語能力試験 N1 対策：N1 の試験に合格できる力をつける。
②語彙力の向上。

授業内容：１.1 分間スピーチ（３０分）
２.美術関係記事についてのディスカッション（５０分）
３.映像教材を用いた美術用語導入（９０分）
４.前回導入した美術用語のチェック小テスト（１０分）
５.課外宿題
・言語知識、読解、聴解の実戦練習。
・模擬試験。
※留学生対象授業。

実技科目：前期実技授業名：「シルクスクリーン」　担当教員：東樋口徹

授業期間：2022/04/11(月)- 2022/04/26(火)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：2 単位

学習目標：シルクスクリーン版画制作を通して孔版画の専門的知識を習得し、自己表現に結びつくよう学習します。基本の直接製版方法を重ねて実習し、環境にやさしい水性インクを使用して刷紙に刷ります。PC を使用した 4 色分解による 4 版 4 色の作品（１８×２５㎝位）を１点、５版以上を使った作品（２５×３８㎝位）を１点制作、色を刷り重ねる時の表現効果、用具資材の正しい使い方、手順を覚え多彩な効果を会得していきます。

授業内容：基本的な水性インクで紙に刷る４版４色を使った作品（Ａ４／２１㎝×２９．７㎝）を一点（紙４枚程度)、５版以上を使った作品（Ａ３／２９．７㎝×４２㎝）を一点(紙８枚程度)制作。

実技科目：前期実技授業名：「現代美術演習Ａ」　担当教員：山本 晶

授業期間：2022/04/12(火)- 2022/06/14(火)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：多様化する美術表現を体験し、表現の可能性の幅、及び表現は唯一ではなく複数であることを発見する。

授業内容：発想から表現へ、どのようなアプローチをすればいいのかを実践を通じて探ります。個人の視点がどのように表現方法につながるのか。個人の内側にある発想が公共空間に置かれた時にどのように映るのか。演習を通して体験します。

実技科目：前期実技授業名：「銅版画」　担当教員：馬場知子

授業期間：2022/05/07(土)- 2022/05/28(土)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：3 単位

学習目標：銅版画の制作プロセスを修得し、作品を完成させます。銅版画には様々な技法がありますが、エッチングを中心に物質の変容と結びついた腐食技法の多様な表現に触れます。版を媒介することで生じる他者性を柔軟に取り入れながら自分の表現の世界を広げましょう。

授業内容：まずテストプレートで様々なマチエール表現を試しながら「道具、薬品の使い方」「描画」「製版」「刷り」の作業工程を理解し体得していきます。本作では自分のイメージの具現化に必要な表現や技法を選択し制作します。
（わからないことはなんでも聞いてください。安全に楽しく制作しましょう）

実技科目：前期実技授業名：「リトグラフ」　担当教員：中村真理

授業期間：2022/05/30(月)- 2022/06/25(土)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：3 単位

学習目標：講義、実習を通してリトグラフの製版方法や刷りの行程を学び理解を深め、リトグラフの特性を活かした制作を行う。

授業内容：リトグラフの特性を利用し、個々の表現したいテーマに基づき制作する。４版種の中でリトグラフの版作りは彫るのではなく「描く」という行為に最も近い版、ドローイングの様に手を動かして版づくりを行い自分自身で体験しながらリトグラフの仕組みを学んでいく。

実技科目：前期実技授業名：「現代美術演習Ｂ」　担当教員：黒瀬陽平

授業期間：2022/06/21(火)- 2022/09/27(火)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：カリキュラム全体を通して各自が制作テーマ、モチーフを発見し、自分なりの制作プロセスを組み立て、作品を完成させることを目標とします。講義では、個別の作品分析、事例分析を中心に進めますが、学生からの質問やリクエストに応じて内容は変化します。

授業内容：現代美術への理解を深め、作品制作を進めてゆくために、講義と課題制作、セッション（課題作品についてのプレゼン、ディスカッション)、講評会を組み合わせたカリキュラムを組んでいます。課題制作とセッションを繰り返すことで、学生ひとりひとりの制作プロセスに応じた指導を行います。講義では狭義の現代美術に限らず、サブカルチャーも含めた他ジャンル、他メディアの作品を数多く扱います。

実技科目：前期実技授業名：「木版画」　担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2022/06/27(月)- 2022/07/16(土)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：2 単位

学習目標：水性多色木版画作品制作および基本技術と技法の展開。

授業内容：1 年次の「専攻別ワークショップ（版画専攻)」で体験した水性木版画１版単色をこの授業ではさらに多色木版画に展開していくことで、木版画技法の充実と色彩について研究します。水性多色木版画の技法は浮世絵に見られるように日本独自の進化を遂げた技法でもあります。古来からの技法と現代の技法を駆使して自由な発想で制作してもらいます。・版木サイズ３００×２２５㎜（４～５版多色）

実技科目：前期実技授業名：「製本実習」　担当教員：山口茉莉

授業期間：2022/09/01(木)- 2022/10/13(木)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：簡易なノート制作と、自分だけの上製本を制作します。本の構造を知りながら、紙の特性や道具の使い方の理解を深めつつ、各自のポートフォリオや絵本制作に生かしていくことができる基礎を築くことを目指します。

授業内容：本の造り、紙の持つ性質を学び、実際に製本する過程を通して「本」そのものの価値を考えます。

実技科目：前期実技授業名：「技法と表現 A」

担当教員：鈴木吐志哉、東樋口徹、馬場知子、中村真理

授業期間：2022/09/01(木)- 2022/09/22(木)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：2 単位

学習目標：基本４版種から各自が選択した技法による制作。エディション刷り体験

授業内容：8 月までにおこなった４版種（シルクスクリーン、銅版画、リトグラフ、木版画）から各自で技法を選択し、画材の購入の仕方、取り扱い等を学びながら小作品のエディション刷りを体験し、版画集へと展開させます。

・エディションへの挑戦（１０部程度）

・紙サイズＡ４　（イメージサイズは自由）

実技科目：後期実技授業名：「石版画」　担当教員：板津 悟

授業期間：2022/09/26(月)- 2022/10/14(金)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：講義、実習を通して石版画の歴史や技術を学び、平版の仕組みを体感しながら石版石の特徴を活かした制作を行う。

授業内容：石版石を版材として使える様な状態にするまでの作業工程も含めて、素材との対話を大切にしながら個々の表現を考える。作品はモノトーンとし、一つ一つの行程を把握する。

実技科目：後期授業名：「写真と美術」　　担当教員：松蔭浩之

授業期間：2022/10/04(火)- 2022/11/15(火)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：1 単位

学習目標：写真の成り立ちから、構図や光の捉え方などを享受しつつ、「写真とはなにか？」を考察し、絵画制作に活用することを目標にする。

授業内容：歴代写真家の作品を紹介し、読み解きながらの座学と、デジタルカメラの扱い方を指導しつつ、ワークショップ形式で制作を重ねる。

実技科目：後期実技授業名：「ドローイングＡ」　担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2022/10/17(月)- 2022/10/26(水)

授業時間：9：20-10：50/11：00-12：30

修得単位：1.5 単位

学習目標：版画制作から離れ、ドローイング制作に集中する時間とする。版画の技法に制約されることなく、様々な支持体や素材を試す事で多角的に各自の表現を研究する。さらに「らくがき」等を通して描く喜びを再認識してもらいます。

授業内容：サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。版表現から一旦離れ、自由な表現を繰り返す中から自分の作品について考える時間とする。また、期間中に屋上にて「らくがきドローイング」を行います。

実技科目：後期実技授業名：「木口木版画」　担当教員：長島 充

授業期間：2022/10/27(木)- 2022/11/09(水)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：1.5 単位

学習目標：彫っては摺るという繰り返しによるこの技法のシンプルなプロセスと、ビュランを使って細密に彫れるという板目木版画とは異なる木口木版画ならではの表現を制作を通して学んでいく。

授業内容：『掌の命・てのひらのいのち』（命ということを広義にとらえる）という課題テーマでモノクロームの木口木版画を１点制作してもらう。小さなサイズでも大作に負けない高い完成度、密度を得られる版表現を体験する。

実技科目：後期実技授業名：「銅版画直刻法」　担当教員：長島 充

授業期間：2022/11/10(木)- 2022/11/18(金)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：ドライポイントを始め、銅版直刻法による制作。様々な工具による線刻の表現や黒インクの刷りの表現方法の現れ方の違いを学習し、ダイレクトに版を彫っていくこの技法ならではの特徴を体験する。

授業内容：銅版画の中で、腐食を用いず直接的に版を彫っていくドライポイント技法を中心とした直刻法によりモノクローム銅版画を１点(３０×３６．５㎝)制作する。課題のテーマは「人間像」。銅の板を直接彫っていく緊張感を体験してもらう。

実技科目：後期実技授業名：「ボックスアート」　担当教員：山口茉莉

授業期間：2022/11/21(月)- 2022/12/03(土)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：ボックスの制作方法を学び、自作の新たな展開を目指します。

授業内容：製本実習で学んだ紙の知識をより深めながら、ボックスを用いた自己の表現の可能性を探ります。

実技科目：後期実技授業名：「ドローイングＢ」　担当教員：鈴木吐志哉

授業期間：2022/12/05(月)- 2022/12/16(金)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：「ドローイングＡ」同様に自由なドローイング制作に集中する時間とする。ただし、今回は各自の版表現へどのように展開できるかも同時に検証する。

授業内容：サイズ・支持体・素材・枚数・他。各自の判断で選択して制作。
（１，０００×７００㎜程度の大作が望ましい。）
作品の展示額装及びパネル制作についてのデモンストレーション。

実技科目：後期実技授業名：「先端メディア(先端メディア　アート&デザイン)」

担当教員：八幡純和

授業期間：2023/01/12(木)- 2023/02/02(木)

授業時間：13：30-16：30

修得単位：1 単位

学習目標：VR という技術とそこに連動して様々な新しい魅力を展開しているサービスへの理解。また先端技術を応用した作品制作への展開。

授業内容：ゲームやファッションの世界だけでなく現代の様々なカルチャーやサービス、イベントなどと連動して発展している「VR（バーチャルリアリティ)」の世界。その VR の仕組みと特性を理解しながらバーチャル空間ならではの作品制作を個々に試みます。

実技科目：後期実技授業名：「技法と表現Ｂ・インターンシップ」

担当教員：鈴木吐志哉、東樋口徹、馬場知子、中村真理

授業期間：2023/01/10(火)- 2023/02/25(土)

授業時間：9：20-12：30/13：30-16：30

修得単位：7 単位

学習目標：２年生の期間に学習した技法を駆使し、各自自由に版種を選択しての制作。エスキース等も含め各自の方向性を探り、研究する時間とする。

授業内容：作品サイズ指定なし。各自の自由とする。・２作品以上を制作。
就業体験（インターンシップ）をし、それをレポートにまとめて提出。（希望選択制）

学校法人高澤学園
創形美術学校
〒171-0021 東京都豊島区西池袋 3-31-2
TEL 03-3986-1981 FAX 03-3986-1982
URL https://www.sokei.ac.jp/
E-mail:sokei@sokei.ac.jp